

昆虫の成長の観察で一番大切なことは、「成長の一瞬一瞬を連続して観察する」ということだ。「孵化前の卵」と「孵化後の幼虫」を比較するのは簡単だ。しかしそれでは「孵化」という生物の営み(現象)を本当に観察したことにはならない。



教室でアゲハの卵から飼育して、常に子どもたちのそばに置いておけば、眼のいい子どもたちのこと、誰かが必ず孵化の一瞬に気づく。この時もそうだった。「せんせえーい! 卵に穴が開いてる!」孵化の一瞬だ。



私はすぐに顕微鏡の上に葉ごと載せて、できるだけたくさん子どもたちに直接観察させた。動画にも撮っておいたが、やはり目の前でまさに幼虫が出て来る

様子を見させること、こんなに小さな命が誕生した一瞬に「立ち合わせる」ことが何よりも大切なのだ。



アゲハの幼虫は孵化後に、卵の近くで少し「休憩」したあと、もう一度卵の場所に戻ってくる。そして生まれて最初にすることは、「殻を食べる」ことである。この「不思議な食事」の様子も、一部始終を子どもたちと一緒に観察できた。以前3年生を持った時にもあった出来事だが、驚くべきことに、子どもたちにはその「殻を食べる音」が聞こえるという。

【子どもの絵だよりから】

「アゲハのよう虫が、たまごから出てくるところを見れました。出てから少し歩いて、そのあとたまごのカラを食べちゃいました。きっとカラにも栄養があるんだと思います」



「観察コーナー」は3年教室(オープンスペース)の入口に、虫メガネや観察カードと一緒に置いてある。登校時や休み時間に自由に観察できるようにしてある。こうしておく子どもたちは、私は気づかないようなさまざまな発見をしてくれる。